



県立安土城考古博物館のホームページは、こちらから



県立安土城考古博物館（近江八幡市）では、安土城築城から450年を記念して、4月25日から6月14日に2026年度春季特別展「安土山築城前夜―戦国乱世の城―」を開催します。

戦国時代の城は、しばしば「乱世」という枕詞が付きくまひつに、もっぱら戦に使用する臨時施設のイメージがあると思います。一方、

■ 安土城考古博物館特別展（近江八幡市）

築城450年 あえて周辺資料



特別展で展示予定の北畠氏館跡（津市）から発見された青磁水鳥形香合（座敷飾り）＝北畠神社蔵

近世の城は、石垣の上に土壁や瓦を用いた重厚な構造物が並び、内部は政庁や茶会などの文化交流の場としての機能も備えています。織田信長が築いた安土城は、このような近世の城の要素を初めて兼ね備えた、「近世城郭の出発点」

特別展で展示する観音寺城跡（近江八幡市）から見つかった土師（はじ）器皿（武家儀礼や宴会等に使用）
 県立安土城考古博物館蔵



に位置付けられています。それではなぜ、信長はこのような画期的な城を築くことができたのでしょうか。戦国時代の各地に築かれた城に目を向けると、石垣や土壁、瓦といった構造物の痕跡や、文書を発給するための筆記具、茶の湯に



これまでの「しが旅のススメ」はこちらから

展示では、県内や周辺の地域を代表する城跡の資料を展示します。安土築城4

【アクセス情報】県立安土城考古博物館へはJR安土駅から徒歩25分、レンタサイクル10分、タクシ16分。車は名神高速道路電王インターチェンジ（IC）から30分、八日市ICから30分。国道8号西生来交差点を経由して加賀団地交差点を右折。

必要な道具などの遺物が見つかっています。既に各地の城には恒常的な施設が存在し、その中では、政治や文化交流が行われていたのです。信長は、それまでの城の要素を集大成して、安土城を築いたとも言えます。

50年を迎える今年、戦国時代の城を通して、別の角度から安土城に目を向けるきっかけにしたいだけではありません。当館では、他にも安土城築城450年を記念する催しを開催する予定です。ご期待ください。詳細は当館ホームページをご覧ください。

（県立安土城考古博物館・佐藤佑樹）